「NHKと民放」がテレビとラジオで共同、BSでは民放5局、TVerもフェス!、radikoも!

放送業界が「ある一線」を越えた!

どう向き合うべきか、日本の　　放送局は考えを巡らせていた。「東日本大震災から10年を迎える3月11日」。被災者と被災　　地を思い、「公共性」として何を伝えるか。地上波テレビ、ラジオ、BS民放、インターネット上のTVerもradikoも動いた。そこには、いまだにかつてなかった「共同」があった。表層的な連携ではなく、放送が果たすべき役割を考えながら、NHKと民放各局の現場がたどり着いた結論であった。TVerもradikoも、地上放送局との連携を深めた。放送業界が「ある一線」を越えた! そこに、メディアとしての自覚、ジャーナリズムの原点を思う。

（企画担当：吉井 勇・本誌編集部）

【特集構成】

● 民放キー5局とNHKの6局 防災プロジェクト
「局の垣根を越えて番組を制作したことの意味」

フジテレビ 情報制作センター室長・濱潤氏
NHK 東日本大震災プロジェクト専任部長・福田秀則氏

● NHKと民放連の担当者が語った
共同特設サイト「ラジオの証言～災害を語り継ぐ～」に込めた思い

NHK ラジオセンター長・桑代百合子氏
民放連／文化放送 編成局長・太田英明氏

● BS民放5局リレー生中継番組
『バナナマンのBSはササルTV』

番組プロデューサー 小松純也氏

● TVerのオリジナル企画
「TVerフェス! SPRING2021」と「TVerアワード2020」を配信展開

TVer 代表取締役社長・龍宝正峰氏
コンテンツ戦略部長・渡辺実氏

● 風化させない“311 VOICE Message”radiko特設サイト
14人の俳優による詩の朗読コンテンツ

民放 NHK 6局防災プロジェクト